

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2025 年 10 月 2 日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	法学部、法律学科、ビジネスロー専攻
留学(渡航)した時の学年	2 年生
帰国年月日	2025 年 9 月 21 日
明治大学卒業予定年月	2027 年 3 月
留学先大学について	
留学先国	オーストラリア
留学先大学	ニューイングランド大学(日本語名) University of New England(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/ 英語
留学期間	2025 年 2 月～2025 年 9 月
留学先大学で在籍した学年	1 年生
留学先の所属学部等	☐ 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称: ☒ 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している ☐ その他:
形態	☐ 国立 ☒ 公立 ☐ 私立 ☐ その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 2 月下旬～5 月下旬 2 学期: 6 月下旬～9 月下旬 3 学期: 4 学期:
学生数	2 万 2 千人
創立年	1954 年

留学費用			
留学費用項目	A 現地通貨 (オーストラリアドル) (1 現地通貨 = 97.44 円)	B 日本円	備考
授業料	0	円	協定留学のため、明治大学に納める学費のみ
宿舍費	980AUD	円	光熱費、インターネット
食費	946AUD	円	寮提供食事、月 60 食 636AUD+個人の食費 310AUD
図書費	0AUD	円	
学用品費	150AUD	円	教科書、ノート
携帯・インターネット費	39AUD	円	月定額プラン、インターネットは寮費内
現地交通費	100AUD	円	町のバス (☐ 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	230AUD	円	オーストラリア PAP 代
旅費(留学中)		48,7200 円	メルボルン、ブリスベン、シドニー、エアーズロック 2 週間旅行
被服費	248AUD	円	
医療費	0AUD	円	怪我をして病院にかかったが、保険で全額もどった
保険費	1420AUD	13,8364 円	形態: OSHC543AUD, 東京海上
渡航旅費		19,4880 円	
ビザ申請費	1600AUD	円	
雑費	388AUD	円	ラグビー 1 シーズンプレーするための費用, ユニフォーム、シューズ
その他		円	
その他		円	
合計 ※現地通貨 および 円	6101AUD (=59,3598 円)	82,0444 円	
総計(A+B) ※円		141,4042 円	

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。

渡航関連

渡航経路

往路 出発地： 羽田 目的地： アーミデール 経由地： シドニー

復路 出発地： アーミデール 目的地： 羽田 経由地： シドニー

渡航費用

① 往復チケットを購入した場合
航空会社： カンタス航空
料金： 19,4880 円

② 片道ずつチケットを購入した場合
往路 航空会社： 料金：
復路 航空会社： 料金： ∴合計：

航空券購入方法

☐ 旅行代理店(店名：)

☒ インターネット(サイト名： Qantas.com)

☐ その他()

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例：アパート、大学の宿舎等)

☒ 学生寮(寮の名前： ロブカレッジ) ☐ アパート ☐ ホームステイ

2) 部屋の形態

☒ 個室 ☐ 相部屋(同居人数)

3) 共有部分

☒ バス ☒ トイレ ☒ キッチン(☒ 自炊可 ☐ 自炊不可)

4) 住居を探した方法：

大学のマイページから寮を選択することができ、そこから決めた。

5) 感想：(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

毎週イベントがあり、勉強に集中するのは少し厳しかった。しかし友人はたくさんでき、スポーツに熱中できる場所が良い。何か新しいスポーツをしたい、帰国後も寮でできた仲間と繋がりたい人にはおすすめ。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

☐ なし

☒ あり (治療を受けた場所: 町医者)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

☒ なし

☐ あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

現地に住む日本人の方がいたため、その人から色々聞いた。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で 1 週間に 1 度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

インターネット接続に問題はなかったが、低速になることが頻繁にあった。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地でつくった銀行口座は寮費用にし親から送金してもらった。出国前に手続きを済ませていたため、現地では簡単に開設することができた。残りは元々自分もっていたクレジットカードではらっていた。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

変換プラグ「日本とは違うコンセントのため」

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
24 単位	☐ 単位 ☐ 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
☒ 出発前 ☐ 出発後 ☐ 派遣先大学の事務室 ☐ オンライン ☐ メール ☐ その他() ☐ 履修の制限があった:	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。 記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Property Law	不動産法
科目設置学部・研究科	Law & Business
履修期間	2 月～5 月
単位数	6
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義 & オンデマンド(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 180 分が 1 回
担当教授	Kip Werren
授業内容	NSW 州や QLD 州によってどう不動産や物権が違ふのかを考え、判例を見て検討する
試験・課題等	小テストが 2 回、中間テスト、期末テスト
感想を自由記入	日本とは違って州によって法律が変わり、聞いたことのない専門用語がたくさん出てきて、その上でディスカッションをしたりするため、本当に苦労した。期末は論述 2 問で試験時間が 2 時間 40 分もあった。単位が取れた時は、ものすごい達成感があった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Communication for Business		ビジネスのためのコミュニケーション
科目設置学部・研究科	Law & Business	
履修期間	6 月～9 月	
単位数	6	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 120 分が 1 回	
担当教授	Matthew Wysel	
授業内容	将来ビジネスをする上での必要なスキルを学ぶ	
試験・課題等	レポートが 3 つとテスト 1 回	
感想を自由記入	自分と同じ留学生がたくさんこの授業をとっていたため、他の授業と比べて安心して受けることができた。教授もフレンドリーな方で、比較的話しやすかった。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Environmental Peace		環境の平和
科目設置学部・研究科	Health and Community	
履修期間	6 月～9 月	
単位数	6	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義とチュートリアル(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 60 分が 1 回	
担当教授	Chris Brown	
授業内容	オーストラリアが環境保護のためにどのような対策をしているのか、また自分なりに環境を良くするためにどのようなことをするかを考える	
試験・課題等	レポート 4 つ	
感想を自由記入	オンラインで受けている人が多く、ヨーロッパや中東の国からチュートリアルを受けている人がいた。レポートで何かわからなかったことがあったときに、オンラインで受けている生徒が助けてくれたのが印象に残っている。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Introductory Psychology I		心理学基礎
科目設置学部・研究科	Psychology	
履修期間	6 月～9 月	
単位数	6	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	オンデマンド、講義(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 120 分が 1 回	
担当教授	Methuen Morgan	
授業内容	心理学をビジネス、臨床など色々な観点から見て、そこから自分なりの結論を出す	
試験・課題等	レポート 1 回、小テスト 2 回、期末テスト	
感想を自由記入	この授業も環境の平和と同様にオンラインで受けている人がおおく、500 人ほどがこの授業を履修していた。期末は 100 問選択で、難易度もやや高め。	

卒業後の進路について

1) 進路 ※3 年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記 2 以降は記入不要)

☒就職 ☐進学 ☐未定 ☐その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。
内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。
就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。
ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

自分は 2 年終了後から色々インターンについて考えるようにはしていたのだが、なかなかオンラインで長期インターンをさせてくれる企業がなかったため、帰国後にすぐインターンを始められるように、オフラインで直接本社に行くインターンをする決めた。留学を終えて、人と話すことが好きになったということもあるため、この強みを活かせるインターンをすぐ始めた。インターンをもし始める場合、自分の強みであったり、自分の好きなことを軸として考えるべきだと思う。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1 月 ~ 3 月	IELTS 試験
	4 月 ~ 7 月	協定留学のための 2 次試験面接
	8 月 ~ 9 月	留学先大学への手続き
	10 月 ~ 12 月	ビザ取得、履修登録
留学開始年	1 月 ~ 3 月	2 月出国、下旬から 1 学期スタート、3 月肉離れ
	4 月 ~ 7 月	4 月中間試験、5 月期末、6 月下旬 2 学期スタート
	8 月 ~ 9 月	8 月中間試験、9 月期末試験、帰国
	10 月 ~ 12 月	インターン開始
留学/帰国年	1 月 ~ 3 月	就活
	4 月 ~ 7 月	
	8 月 ~ 9 月	
	10 月 ~ 12 月	

留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生活全般等について、アドバイスを記入してください。

高校生の頃から留学に行きたいという強い思いがあり、「自分のコンフォートゾーンから抜け出す」という目標を立てて臨んだ。英語を話すこと自体は得意だったが、実際に人と会話する場面では緊張して言葉が出ないことも多かった。そのため、あえて日本人が少ない環境を選び、シドニーやブリスベンといった主要都市ではなく、田舎町アーミデールにあるニューイングランド大学を留学先に決めた。私の寮は留学生が自分一人だけで、最初の数日は会話にもついてもいけず孤独を感じた。しかし「このままでは何も始まらない」と思い、勇気を出して積極的に話しかけるようにした。すると、周囲の人たちも実は私と関わりたいと思っていたことが分かり、一気に距離が縮まった。7ヶ月の滞在を通じて多くの友人ができ、来年日本に遊びに来ると約束してくれた仲間もいる。

また、現地でラグビーを始めたことも大きな転機だった。寮のチームに入り、仲間と同じ目標に向かって努力する中で自然と絆が深まった。留学前から「やったことのないスポーツに挑戦する」と決めていたが、ラグビーを選んだのは大正解だったと思う。

一方で、寮生活には苦労もあった。毎週木曜日にあるイベントは楽しい反面、夜中まで続くことが多く、生活リズムが乱れがちだった。音楽が深夜まで鳴り響く日もあり、眠れないことも多かったが、その分精神的に強くなれたと感じている。

最後に、これから留学を考えている人には、寮やホームステイ先を出国前にしっかり調べて選ぶことを強く勧めたい。留学は人生において貴重な経験であり、環境によってその充実度は大きく変わる。自分に合った環境を選び、実りある、そして心から楽しい留学生活を送ってほしい。